

特集 日本海振興と留萌地域活性化に向けた 5つの「核・拠点形成」づくり シリーズ3

民間企業等と連携した「①アウトドア観光の拠点」「②未来志向型教育の拠点」「③食料安全保障の拠点」「④再生可能エネルギーの拠点」「⑤食品製造の拠点」といった5つの核・拠点形成づくりによる新しい産業の創出と雇用・関係人口増に向けてチャレンジし、本市の持続的な発展を目指します。9月号では、「④再生可能エネルギーの拠点」について掲載します。

問 市・政策調整課 TEL 42-1809

4 再生可能エネルギーの拠点

■背景

- ①国は、2050年に温室効果ガスの排出をゼロにするカーボンニュートラルの実現に向け、石炭火力発電から、再生可能エネルギーへの転換を目指す。
- ②国は、グリーン成長戦略の中で洋上風力を推進し、雇用と成長を生み出すとしている。
- ③留萌市は、風のポテンシャル（潜在力）が高く、また、風車の受け入れに向けて、留萌港の有効活用が図られる。
- ④政府の導入目標が示され、今後洋上風力における区域の選定が加速化すると予想される。
- ⑤国は、令和4年9月に基地港湾の指定等の意向がある港湾として、「留萌港」を公表している。



洋上風力発電（イメージ）

留萌市の持つ自然条件の優位性や高いポテンシャルを持つ留萌港の強みを生かした「洋上風力発電誘致」などによる新たな産業の拠点形成



留萌市沖を想定区域とした地域指定

地元漁業者、水産関係者とも情報共有を図り、共存・共栄への道に理解を深めながら、当地域での案件形成を目指します。

（国や北海道と連携し、可能性調査の実施を進めていきます）

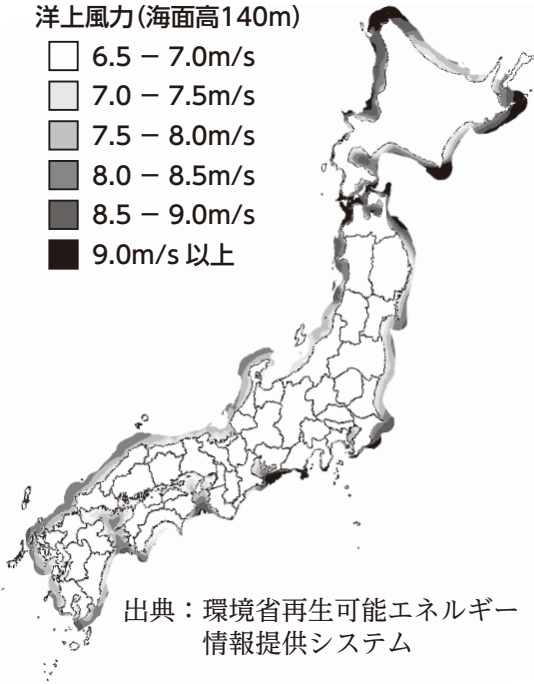
■期待される効果

- ・風車建設関連やメンテナンス等の新たな産業拠点形成による雇用の創出
- ・留萌港の有効活用、風車運搬のためのインフラ整備
- ・電気の地産地消、税収の増

留萌地域の風況

洋上風力(海面高140m)

- 6.5 - 7.0m/s
- 7.0 - 7.5m/s
- 7.5 - 8.0m/s
- 8.0 - 8.5m/s
- 8.5 - 9.0m/s
- 9.0m/s以上



出典：環境省再生可能エネルギー情報提供システム



世界三大波濤(留萌沖)

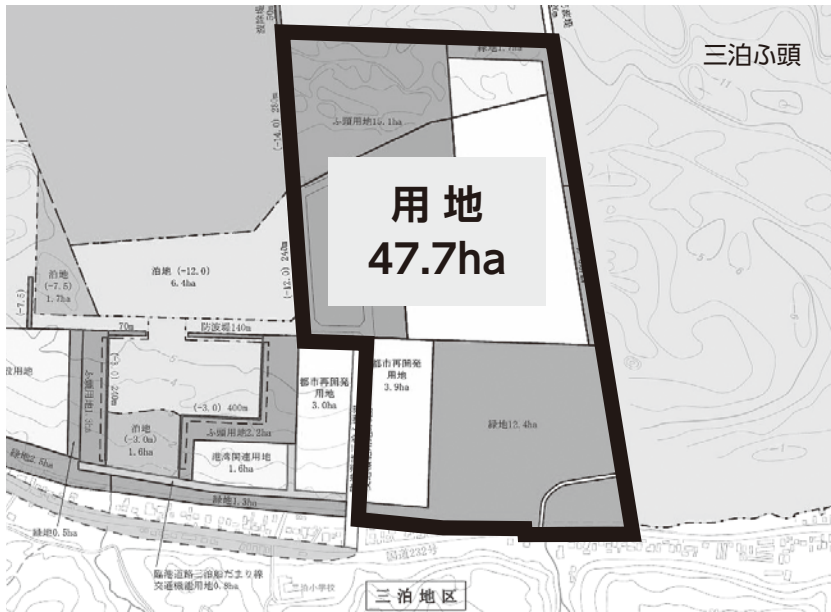


留萌市陸上風力(礼受地区)

留萌沿岸に押し寄せる波濤(大きな波)は、インドの「マドラス」、スコットランドの「ウイック」とともに、世界三大波濤の一つとされています。

留萌地域は、国内でも有数の陸上風力発電の導入を先駆的に進めてきた地域であり、留萌沖に関しても年平均で風速7.5m/s以上の安定した風況があり、そのポテンシャルは高い地域です。平成9年には、民間事業者が礼受牧場に陸上風車10基を建設しており、また、留萌港湾内でも民間事業者が4メガワットの大型陸上風車2基を建設し、令和6年3月に稼働予定となっています。

重要港湾留萌港の活用(基地港湾指定の際の港湾計画図)



留萌港での風車陸揚げ、運搬の様子。留萌地域陸上風力発電の資機材置場にも活用が想定される。

洋上風力発電の 基地港湾指定に 向けて

2027年3月には、北海道電力が奈井江・砂川火力発電所の廃止を公表しており、今後は、再生可能エネルギー関係への転換が加速度的に進む可能性があります。

留萌港は、現在、水深12メートル、延長240メートルの岸壁※1バースを有し、背後には363ヘクタールの用地があり、今後、水深14メートル、延長280メートルの岸壁1バースの整備により、477ヘクタールまで用地が拡張可能となっており、早期に基地港湾に指定され、洋上風力発電設備の設置や維持管理などに利用されることが期待されます。

今後、陸上、洋上を含めて留萌地域の資源である「風を活かした再生可能エネルギーを推進し、重要港湾である留萌港を基地港湾として、留萌地域から自然エネルギーを供給できるような環境整備が必要となっています。

(※1バースとは、港内で貨物の積卸しなどを行うために船舶が停泊する水域で、船1隻が作業を行うために占める水域をいう。)